

第2号様式（第4条関係）

地域づくり総合支援事業（ふるさと・きずな維持・再生支援事業）  
事業計画書

平成26年4月17日

一部修正 平成26年5月30日

1 実施主体

(1) NPO法人等が申請する場合

NPO法人等 (実施主体)	種別及び名称	特定非営利活動法人 和		
	住所	京都市下京区七条大宮西入西酢屋町10		
NPO法人等 (連携先)	種別及び名称	特定非営利活動法人きょうと NPOセンター	担当者名	田口美紀
	住所	〒604-8166 京都市中京区三条通烏丸 西入御倉町85-1 烏丸ビル2階 Flag 三条	電話番号	075-744-0944

(2) 協議体が申請する場合

協議体の名称			
代表構成員の団体名及び代表者職氏名			
構成 団 体	都道府県・市区町 村名及び部課名	事業における 役割	
	民間非営利組織 の種別・名称	事業における 役割	
住所	電話番号		

2 事業概要

事業名	交流サロン「福興サロン <sup>なごみ</sup> 和」運営事業		
総事業費	4,815,000	円（うち希望補助金額	3,852,000 円）
事業の実施期間	平成26年6月1日から平成27年3月31日まで		

注：補助対象期間は補助金の交付決定日からとなります。

3 事業計画

地域における  
課題と事業の  
目的

本法人は、京都府下に避難をしている方々のこころのケア、生活支援、交流会や専門家相談を行う拠点「福興サロン和 Nagomi」を平成23年10月から運営し、避難者の孤立を防ぐための多様な支援を行ってきました。昨年度の実績は下図の通りです。

**福興サロン和**  
~Nagomi~

平成23年度 WAM助成と寄付で運営  
平成24年度 福島県助成と寄付で運営  
平成25年度 福島県助成と郵便年賀助成金で運営

**復興活動支援センター運営事業**

避難者の活動拠点で、ソーシャルワーク等の支援機能を持つ。スタッフ常駐。

**交流サロン事業**

**各種サロン**

育児相談。H25は全79回、参加者253人

**京都府との合同開催による避難者イベント**

京都府との合同開催による避難者イベント 参加者43世帯・115名

**生活支援・福祉相談・メンタルケア事業**

H25個別相談件数51回

**情報収集・発信・連携事業**

月1回お便り

全12回×450部…5,400部

「連携会議」

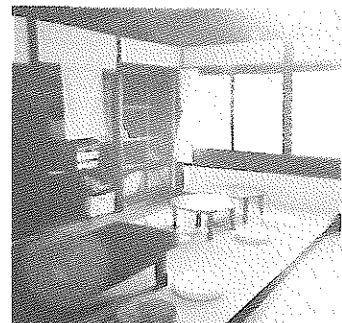
【避難者支援プラットフォームに参加】

【近畿ろうきんNPOパートナーシップ制度に参加】

【JCN広域避難者連絡会に参加】

**本法人サイトの「福興サロン和」についての記載引用**

長引く避難生活で、疲れてしまって…という方が多くなっています。福興サロン和では、オーダーメイドのような支援を目指しています。詳しくお話をお伺いし、どうすればよいのかを一緒に考えていきたいと思えます。一人で悩まず、どんなことでもまずはご相談ください。「話す」は、「離す」に通じます。課題を整理整頓できたり、優先順位をつけて考えたり、のヒントが見つけれられたらと思えます。

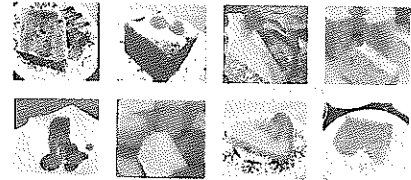


福興サロン和（交流サロンスペース）

さらに避難者の帰還までの暮らしと職業スキルの向上を支える就労支援拠点「キッチンNagomi」（従業員15名）を運営し、西日本における広域避難者就労支援の最初のシンボリックな拠点として社会的認知を得ています。マスコミにも多く取り上げられました。



キッチンNagomi  
春のデザート  
バイキング♪  
かわかりやすいフリーストリング  
大人おひとり  
¥2,000  
4/24・25  
12:00スタート



「一人ひとりの暮らしを支える」をモットーに、避難者の方々の生活を支えるために、NPO法人和（なごみ）理事長の大塚茜さんが、就労支援拠点「キッチンNagomi」を運営している。この拠点は、避難者の方々の生活を支えるために、さまざまな支援を提供している。大塚さんは、この拠点を運営する中で、避難者の方々の生活を支えるために、さまざまな支援を提供している。

大塚茜さん 35歳  
一京都市下京区

NPO法人 和（なごみ）理事長



「私たちが」が一步踏み出す  
「私たちが」が一步踏み出す。これは、大塚さんが運営している「キッチンNagomi」の理念です。この拠点は、避難者の方々の生活を支えるために、さまざまな支援を提供している。大塚さんは、この拠点を運営する中で、避難者の方々の生活を支えるために、さまざまな支援を提供している。

大塚茜さん、35歳、京都市下京区出身。NPO法人和（なごみ）理事長。この拠点を運営する中で、避難者の方々の生活を支えるために、さまざまな支援を提供している。大塚さんは、この拠点を運営する中で、避難者の方々の生活を支えるために、さまざまな支援を提供している。

京都府下の避難者累計 1,369 名（473 世帯）のうち福島県からの避難者は 1,084 人（356 世帯）で、うち現時点での公営住宅入居者は福島県で 452 人（169 世帯）です（平成 26 年 4 月 10 日現在・京都府調べ）。452 人以外の方の中には帰還者、他府県への移住者も含まれますが、府内公営住宅以外への移住者も多く、依然多くの避難者が不安を抱えながら京都で暮らしています。多くの方々は比較的まとまって京都市及びその周辺市のいくつかの公営団地に居住していますが、避難時期の差や出身地、家庭背景によって状況が様々に分化しており、加えて世帯が抱える問題が深刻化しています。

京都府下では、京都府が避難者支援プラットフォーム（支援団体の情報交換を目

	<p>的とした会議体) を運営し、本団体もその中心団体の一つとして、府や他団体及び府内の教育機関、企業、ボランティア団体と多様な連携を図ってきました。平成 24 年度からは年度末には府と本団体がイベントを共催していて、今年 3 月は、福島県庁から職員様がお越しになったこともあって、広域避難者 130 人もの来場がありました。これは西日本の広域避難者団体のイベントの参加人数では、きわめて多い水準です。ふだん「和」に来場していない方も、その存在があるだけでも安心だという評価を受けています。</p> <p>一方で相談件数も減らず、その内容も今なお深刻です。郷土への帰還についての悩み、家族関係と周囲の人間関係の悩み、避難者同士でありながら温度差があるなどの事例も多く、また避難生活以前から抱えていた問題の顕在化、心身の疾病の重度化が目立ち始めました。生きづらさを抱えている避難者も非常に多く、当事者同士というだけでは分かち合えないこと、また相互扶助に限界があるということが分かっています。</p> <p>本団体と行政、他団体はこうして 3 年間にわたって連携し、個別の避難者やグループに対応してきました。昨年からは、福島県の助成を受けて家族単位での相談、避難者の役割の回復、それらの支援の明確なくみづくりをめざしています。</p> <p>また、帰還したいが帰還先の現状についての不安、家族不和を訴える方も増えています。この課題においては、全国の先進的避難者支援団体との連携、貴県避難者担当所管課との情報共有も重要であると考えています。</p> <p>&lt;目的&gt;</p> <p>以上から、本事業の相談業務、交流・コミュニティ構築の支援、就労相談支援を通じて、長期化する避難生活において、避難したことによる生活の不便や不自由さから、帰還・移住双方の選択にとって、一步進んだ形で生活を再構築する力を共に身につけていただくことを本事業の目的とします。</p>
事業の目標	<p>「〇〇を〇〇以上にする」等、可能な限り数値を用いて記載してください。</p> <p>1 当法人スタッフひとりひとりのスキルを伸ばし、じっくりと対象の方に関われるゆとりやチームワークをもつことが肝心であり、このことを実現させるための人材育成を目標とします。【⇒広域避難者からのスタッフ 1 名の確保と育成】</p> <p>2 既存の社会資源との関わりをさらに深めるとともに、チームケア体制をつくり、支援の「見える化」をいっそう進めます。【⇒京都府下支援リソースをマッピングした支援マップの作成、法人内でのチームケア体制の強化】</p> <p>3 集える機会をいっそう恒常化・拡大し、年齢層、性別、避難元などの属性にも配慮したサロンを行政とも連携して開催します。</p> <p>【⇒年間開催回数 36 回、うち京都府との合同開催 1 回、延べ参加人数 800 人】</p>
事業内容	<p>福興サロン和～Nagomi～の運営</p> <p>福興サロン和～Nagomi は、東日本大震災の影響を受け、京都府下に避難・移住され</p>

ている方々の生活相談事業や交流会開催などを行っています。サロンでは、避難者の悩みや相談を受けながら、「今必要なことはなにか」「どうすればよいのか」を共に考え、個別に解決に導く支援を行っています。また、京都府や他の避難者支援団体そして当事者の団体と密接に連携しています。

#### 避難児習い事支援事業

- ・ピアノ教室（月3回、対象者20人）
- ・英会話教室（月2回、対象者5人）



#### 傾聴・交流サロン活動

- ・カフェ・デ・モンク（月1回、対象者5人）
- ・ランチ交流会（月1回、対象者10人）
- ・うたごえカフェ（月1～2回、対象者10人）
- ・鍼灸マッサージ（月1回、対象者3～4名）
- ・相談交流会開催（11・3月：京都府避難者支援プラットフォームと共催）

#### 個別相談

- ・ケースカンファレンス（随時）
- ・電話・メール相談（随時）
- ・個別面談（随時）
- ・就労相談（京都府ジョブパークと連携）

#### 支援者会議・情報交換会

- ・京都府避難者支援プラットフォーム（月1～2回）
- ・ホッとネット大阪会議参加（隔月1回）

#### <福興サロン和～Nagomi～の相談体制>

個別のご相談は、随時受け付け、訪問も行っています。

開設日時：月曜日～土曜日 10:00～18:00

場所：京都市下京区西酢屋町10（京都駅から徒歩15分）

主なチーム体制・スタッフの資格

精神保健福祉士・ソーシャルワーカー・保育士・僧侶・鍼灸マッサージ師、

臨床心理士・弁護士・税理士・社会保険労務士 など

主な連携先：京都府、きょうとNPOセンター、社会福祉協議会、ハローワーク（きょうとジョブパーク）、傾聴関係団体、子育て支援団体など

京都府下における当サロンへの相談内容の例「子どもさんが学校へ行きながらいないけどストレスのせい？先生にどう説明したら…」「病院への通院を考えているけど、避難のことをどう話そうか…」「自分だけで相談に行くには少し心細い。避難の状況を最初から説

		<p>明してわかってもらえるのか不安…」「行政に相談したけど、伝わらなくて困った・・・」</p> <p>こういった相談に応じ、可能な範囲で訪問や付き添いをし、避難生活の現状や行政の支援体制などの説明を支援します。</p> <p>なお、サロンスペースは現在、京都の町家を借上げています（事務所スペースがありません）。事務所及び個別相談スペースは、サロンスペースから徒歩3分の賃貸マンションを借上げています。</p>																			
見込まれる成果	1. 本県の復興支援・被災者支援の観点	<table border="1"> <tr> <td>直接的な効果</td> <td> <p>京都府下広域避難者の日常生活の拠り所として、これまで同様に安心感を与えます。これまでの実績から避難者相談の知見が高度に集積されているので、困難な案件や就労相談などにも応じることができ、避難者の生活や帰還までの気持ちを個別に支えることができます。また、皆が憩える場所や機会をいつでも提供できます。</p> <p>本年度の延べ受益者数 2,000 人</p> </td> </tr> <tr> <td>波及効果</td> <td> <p>広域避難者たちが、本法人の事業手法を倣いながら、自主的なコミュニティを形成することに影響を与えます。また、本法人は他の広域避難者団体と常に連携しており、情報交換や交流を通じて、他団体と問題や解決策を共有します。</p> <p>連携団体 約30団体</p> </td> </tr> </table>	直接的な効果	<p>京都府下広域避難者の日常生活の拠り所として、これまで同様に安心感を与えます。これまでの実績から避難者相談の知見が高度に集積されているので、困難な案件や就労相談などにも応じることができ、避難者の生活や帰還までの気持ちを個別に支えることができます。また、皆が憩える場所や機会をいつでも提供できます。</p> <p>本年度の延べ受益者数 2,000 人</p>	波及効果	<p>広域避難者たちが、本法人の事業手法を倣いながら、自主的なコミュニティを形成することに影響を与えます。また、本法人は他の広域避難者団体と常に連携しており、情報交換や交流を通じて、他団体と問題や解決策を共有します。</p> <p>連携団体 約30団体</p>															
	直接的な効果	<p>京都府下広域避難者の日常生活の拠り所として、これまで同様に安心感を与えます。これまでの実績から避難者相談の知見が高度に集積されているので、困難な案件や就労相談などにも応じることができ、避難者の生活や帰還までの気持ちを個別に支えることができます。また、皆が憩える場所や機会をいつでも提供できます。</p> <p>本年度の延べ受益者数 2,000 人</p>																			
波及効果	<p>広域避難者たちが、本法人の事業手法を倣いながら、自主的なコミュニティを形成することに影響を与えます。また、本法人は他の広域避難者団体と常に連携しており、情報交換や交流を通じて、他団体と問題や解決策を共有します。</p> <p>連携団体 約30団体</p>																				
2. 取組実施主体の運営力強化の観点	<p>今まで就労支援事業「キッチンNagomi」で飲食実務、会計、経理、イベントプランナーを育成してきました。彼女たちが本事業ではリーダーとなって、会員にさまざまなアドバイスを行う立場となり、本法人のスタッフの責任感も増し、かつこうした事業の立ち上げ、管理、アドバイザーとしていっそうの人材育成を図ることができます。</p>																				
事業スケジュール	<table border="1"> <tr><td>6月</td><td>サロン6回、相談随時</td></tr> <tr><td>7月</td><td>サロン6回、相談随時</td></tr> <tr><td>8月</td><td>サロン5回、相談随時</td></tr> <tr><td>9月</td><td>サロン6回、相談随時</td></tr> <tr><td>10月</td><td>サロン6回、相談随時</td></tr> <tr><td>11月</td><td>サロン6回、遠足、相談随時</td></tr> <tr><td>12月</td><td>サロン5回、相談随時</td></tr> <tr><td>1月</td><td>サロン6回、相談随時</td></tr> <tr><td>2月</td><td>サロン6回、相談随時</td></tr> <tr><td>3月</td><td>京都府共催サロン、事業評価</td></tr> </table>	6月	サロン6回、相談随時	7月	サロン6回、相談随時	8月	サロン5回、相談随時	9月	サロン6回、相談随時	10月	サロン6回、相談随時	11月	サロン6回、遠足、相談随時	12月	サロン5回、相談随時	1月	サロン6回、相談随時	2月	サロン6回、相談随時	3月	京都府共催サロン、事業評価
6月	サロン6回、相談随時																				
7月	サロン6回、相談随時																				
8月	サロン5回、相談随時																				
9月	サロン6回、相談随時																				
10月	サロン6回、相談随時																				
11月	サロン6回、遠足、相談随時																				
12月	サロン5回、相談随時																				
1月	サロン6回、相談随時																				
2月	サロン6回、相談随時																				
3月	京都府共催サロン、事業評価																				
事業実施体制	<table border="1"> <tr><td>大塚 茜</td><td>本法人代表・プロジェクトリーダー、サロン相談、精神保健福祉士</td></tr> <tr><td>鶴 明浩</td><td>本法人理事・研修、人材育成担当・准認定アドバイザー</td></tr> <tr><td>錦 炎兄</td><td>本法人スタッフ・相談企画担当</td></tr> <tr><td>滝澤 佳世</td><td>本法人スタッフ・母親の美容サロン企画担当、美容師</td></tr> <tr><td>西出 まき</td><td>本法人スタッフ・サロン実務担当、製菓教室担当</td></tr> <tr><td>齋藤 夕香</td><td>本法人スタッフ・ファイナンシャルプランナー・生活相談支援</td></tr> <tr><td>小澤 百衣</td><td>本法人スタッフ・会計実務担当</td></tr> </table> <p>&lt;参加協力者&gt;</p>	大塚 茜	本法人代表・プロジェクトリーダー、サロン相談、精神保健福祉士	鶴 明浩	本法人理事・研修、人材育成担当・准認定アドバイザー	錦 炎兄	本法人スタッフ・相談企画担当	滝澤 佳世	本法人スタッフ・母親の美容サロン企画担当、美容師	西出 まき	本法人スタッフ・サロン実務担当、製菓教室担当	齋藤 夕香	本法人スタッフ・ファイナンシャルプランナー・生活相談支援	小澤 百衣	本法人スタッフ・会計実務担当						
大塚 茜	本法人代表・プロジェクトリーダー、サロン相談、精神保健福祉士																				
鶴 明浩	本法人理事・研修、人材育成担当・准認定アドバイザー																				
錦 炎兄	本法人スタッフ・相談企画担当																				
滝澤 佳世	本法人スタッフ・母親の美容サロン企画担当、美容師																				
西出 まき	本法人スタッフ・サロン実務担当、製菓教室担当																				
齋藤 夕香	本法人スタッフ・ファイナンシャルプランナー・生活相談支援																				
小澤 百衣	本法人スタッフ・会計実務担当																				

	<p>(行政機関のぞく)</p> <p>NPO 法人きょうとNPOセンター・講座企画等</p> <p>公益法人京都新聞社会福祉事業団・総合支援</p> <p>大竹 みゆき 京都ジョブパーク就労相談員・伴走支援</p> <p>桂 正道 浄土真宗本願寺派災害対策本部・総合支援</p> <p>石倉 真也 傾聴僧の会代表・伴走支援</p> <p>藤尾 まさよ 万華鏡コミュニティ代表・伴走支援</p> <p>上平 知子 京都ピアノとうたの音楽ひろば・避難児習い事支援指導委託団体</p> <p>工藤 喜恵 ECC講師・避難児習い事支援指導者</p> <p>&lt;団体ネットワーク&gt;</p> <p>ほっこり通信(京都府)</p> <p>みんなの手(京都府)</p> <p>さぼーと紡(京都府)</p> <p>滋賀県内避難者の会(滋賀県)</p> <p>奈良県被災者の会(奈良県)</p> <p>まるっと西日本(大阪府)</p> <p>避難ママのお茶べり会(大阪府)</p> <p>関西 Future コミュニティー(大阪府)</p>
事業終了後の 展 開	福興サロン和は、国、福島県、京都府の復興関連計画に連動しつつ、今後も恒常的に運営します。
事業の先進性・普 及 性	先ごろ東京でJCNの広域避難者支援団体の全国会議に出席しましたが、恒常的ベースを持たない当事者団体も多く、就労支援や収益事業のほとんどが継続していない状況でした。また、資金の調達や資金管理もままならない状況がわかりました。本法人の各事業は、現在安定的かつ年々拡大しながら、多くの受益者と支援者をつなげています。事業収入料率の継続型モデルとして情報発信していきます。
特記事項	京都府は、他府県に比較すると、広域避難者への行政施策や民間支援のリソースは充実しています。本法人は、今後も各セクターをつなぎ合わせ、年々変化する広域避難者の複雑で深刻な状況に寄り添った支援を継続させる所存です。

第3号様式 (第4条関係)

地域づくり総合支援事業 (ふるさと・きずな維持・再生支援事業)  
収 支 予 算 書

申請者名 特定非営利活動法人 和

【収入の部】

(単位：千円)

区 分	平成26年度 予 算 額	明 細
ふるさと・きずな維持・再生支援事業補助金	3,852	
自己資金 (当法人)	963	
事業収入	0	
その他収入	0	
収入合計	4,815	



## 【支出の部】

(単位:千円)

区 分	平成 26 年度 予算額	明 細
人件費 (共済費を含む)	3,200	福興サロン和スタッフ 16 万/月×2 名×10 か月
報償費	359	
	186	歌声カフェ・サロンチーム謝金@9,300 円×20 回
	93	僧侶ボランティア傾聴活動@9,300 円×1 人×10 回
	80	サロン外部ボランティア等謝金@2000 円×延べ 40 人
旅費	256	
	200	個別相談及び外部スタッフ駐車場費@1,000 円×200 人日
	36	西日本広域避難者支援団体との打ち合わせ旅費 (大阪、奈良など) @平均 1,000 円×36 人日
	20	JCN 全国会議出席 (京都⇄東京) @20,000 円×1 回
需用費	298	
消耗品費	194	サロン開催時の消耗品費一式 (料理教室食材など)
燃料費	50	事務所及びサロン光熱費@5,000 円×10 か月
印刷製本費	54	サロン告知チラシ@5,400 円×10 回
役務費	54	
通信運搬費	54	サロン通信費@5,400 円/月×10 か月
使用料及び賃借料	648	
	648	福興サロン和家賃 (面積割) @64,800 円×10 か月
支 出 合 計	4,815	